

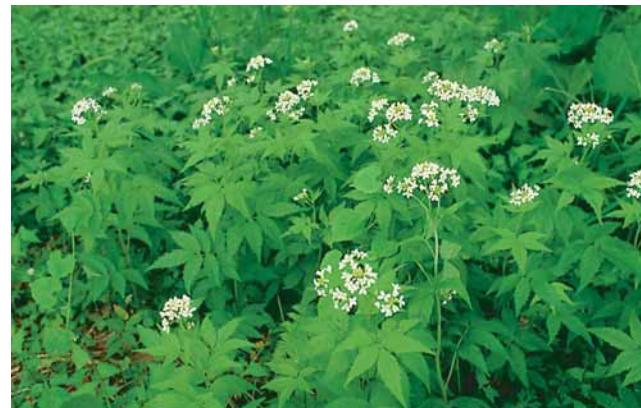
コンロンソウ

Cardamine leucantha

アブラナ科

名前の由来

中国の崑崙山脈によるという。漢字名：崑崙草



コンロンソウ

形態的特徴

高さ40~70cm、直立するが上部でやや枝分かれする。全体に短毛がある。葉は奇数羽状複葉で5か7枚の小葉に分かれ、葉軸に2~3対と頂に1枚の小葉がつく。小葉は先がとがった橢円形で、縁には鋸歯があり、両面に短毛を密生する。花は白色で径6~8mm、4枚の花弁が十字形につき、枝の先に集まってつく。

魚類

生育環境・分布

やや湿った林内に生育する。

分布：国外分布は、朝鮮・中国東北部・シベリア東部・アムール・ウスリー・樺太に分布する。

国内分布は、北海道から九州に分布する。

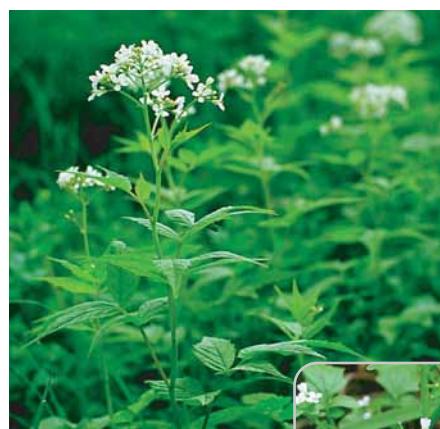
北海道内分布は、全道的に分布する。

十勝地方生育状況は、やや湿った林内に普通に見られる。

底生動物

類似種と見分け方：オオバタネツケバナ、エゾワサビ。

オオバタネツケバナの小葉は3~13枚で、縁は不規則に切れ込み先はとがらない。エゾワサビの小葉は丸みを帯びる。



コンロンソウ



類似種、オオバタネツケバナ

トンボ

生活史

開花時期：5~7月。開花までの年数：不明。寿命：多年草。

チョウ

他生物との関わり

モンシロチョウ、エゾスジグロシロチョウ、スジグロシロチョウの幼虫時の食草となっている。

樹木

興味深い話

■若芽や若菜が食用となる。ゆでておひたしにしたものが美味しい、バター炒め、てんぷら、汁の具にしてもよい。

(在来種)

配慮事項

生育している環境全体が重要である。

外来種



エゾスジグロシロチョウ。
幼虫時、コンロンソウなど、アブラナ科を食草とする

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期												
結実期												

鳥類

参考文献

ワカシ・鳥・タカ

「改訂版 牧野新日本植物圖鑑」牧野富太郎 北隆館 1989

「北海道植物図譜」滝田謙謙 自費出版 2001

「日本の野生植物 草本II」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社
1982

「新版 北海道山菜図鑑」佐藤孝夫・小林隆正・久保秀樹 亜璃

西社 2002

「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994